



杉山 重利さん

鳥取県出身。東京教育大学卒業後、県立津山高校教諭、岡山県教育委員会保健体育課、文部省体育局スポーツ課長、国士舘大学教授を経て、桐蔭横浜大学教授・学長補佐として現在に至る。

津山で武道をするのは意味がある――

杉山 人づくりでいえば、多くの人が「スポーツをすれば人格も高まる」と考えているかもしれないが、私はそうではないと思っています。技術を身につけることと人格を高めることは別のことです。人づくりとスポーツを結びつけるときに、自分の全力を投じて真剣にやっただ人には、それなりに期待できるでしょう。でもこれはスポーツに限らず勉強でも同じことが言えると思います。「武道をすると良い人格が身につく」というのも、正しくないと思っています。ただ武道には厳格な

いことが問題ですね。

武道で人づくりをするには条件が必要

礼法があるので、ほかの外来スポーツよりは礼儀正しいと言えるでしょう。しかし、大事なのは礼をするその「心」。心が備わっていない礼に、そんなに価値はないと思います。もし、武道で人づくりをめざすなら、全力で取り組む武道を一定期間やるということが必須の条件でしょう。中途半端にやった人間に人格を期待するのは無理です。スポーツは10人やると6人までは1年続きます。そのためにもスポーツや武道で人づくりをするには、確かな理念を持った優秀な指導者が長期間指導できるようにすることが必要です。さらにそれを周囲から守ってあげる人々も必要でしょう。

ここには武道の源流がある

市長 たしかに武道には、日本の伝統文化という面がありますから、普通のスポーツと違うと思いがちですが、しさえすればいいというわけではないですね。この美作地方は、武道の最古の発祥の地。そして柔道や剣道、なぎなた、銃剣道など、いわゆる武道9つあるうちの7つが非常に活

発です。杉山 武道の源流がこの辺の地域にあると言えらると思います。ここで武道を一生懸命支援するというのは、地域住民の理解が得られるのではないのでしょうか。ただ、するならば野球にとつての甲子園と同じくらい大きな位置づけとなるよう、少年の武道の錬成大会のようなものを津山から発信するというのは。試合だけでなく5日間くらい泊まってほしい。そのときに、津山に武道の源流があるということが意味を持つのではないかと思います。子どもにも、この地域は「宮本武蔵誕生の地である」と話ができるし、引率する先生にもよくわかってもらえるでしょう。

ビジョンを共有して展開を

井田 介護保険制度ができる前にある離島から介護体制づくりの相談を受けました。そのまちはすでに35%の高齢化率、ほとんどの家が高齢者とともに暮らしていました。そこで「町民みなヘルパー構想」を提案しました。全戸に整備されているCATV網を使い、ヘルパー研修のプログラムを流しま

した。毎日家で見られるので、大勢の人が参加しました。ここで重要なのは、ヘルパーの数を増やすことよりも、お年寄りや若い人がどうかかわるか、ということ。自分の家だけでなく、近所で介護が発生しても支援できる。認知症になった高齢者を地域で見守る。まち全体が介護支援体制の装置になる。人をつくる。事業を通して、みなが「こうありたい」と願うまちづくりにつながった例です。津山市の食育事業の資料をたくさん見せていただきましたが、きめ細かな充実したプログラムで感じました。私は現在、行政のお手伝いをしていく感じなのですが、サービスを提供する行政の思いとかビジョンがなかなか市民の側に伝わりにくいんですね。その結果、事業の効果も思うように上がりません。市民参加の手法として「地域福祉計画づくり」が注目されていますが、この計画では、生活の当事者である住民自身が生活上の共通課題を主体的に捉え、解決するための行動計画を立案する。行政はしかるべき予算をつけ、これを支援する。行政と市民がまちづくりに対するビジョンを共有し行動するという点では、人づくり、まちづくりの新しい形として期待できるのではないのでしょうか。



小宮山 潔子さん

津山市出身。お茶の水女子大学大学院修士課程修了後、国士舘大学文学部教授（教育学科初等教育専攻）として現在に至る。

津山の桜をもっとPRして――

変わるまちなみ、変わらない良さ

小宮山 私は高校を卒業するまで津山にいました。故郷といえは津山ですが、両親が亡くなると帰るきっかけもなくなり、親がいてこそその故郷とも感じます。最近あまり帰る機会がないのですが、たまたま帰ると近所には昔と同じ家があり、そこから昔と同じ人が出てくるんですね。それで、おたがい顔を見合わせて年を取っているのに驚くわけです（笑）。このような昔と変わらないところがある一方で、すごく変わったところもあります。津山駅に降りると、本当に寂しくなりましたね。また、子どものころ田園地帯だった場所は、住宅商業地域になっ

いて、まちが変わったと感じます。交通機関では、岡山空港から津山へのバスの本数も少なくなり、JRも便利でないので、津山へのアクセスが少し心配です。車社会になったということでしょうが、それでは車を運転しない高齢者はどうのように暮らしていっているのか気になりますね。これから高齢者が増えるのに、高齢者は住みにくくなるのかしらと。今回、アドバイザーとして声をかけていただいたことは名誉なこと、お役に立てることがあればありがたい、協力させていただきたいと思っています。

杉山 今日は久しぶりにこちらに来て、しばらく歩いてみました。途中で裁判所の場所を聞いたら、思っていた場所と随分違っていました。まちが非常に変わっています。でも2時間ほどのんびり過ごした後は「やはり私がいいたときに何も変わっていない」と感じました。私が初めて津山に来たのが昭和37年。良いまちだなあと感じたのを覚えています。私が育った鳥取県境港のような空気の良さ、澄み切った空。まち全体の印象が緩や

かで忙しくない。教員としてここで一生を終わってもいいと思いましたが、結果的には5年しかいませんでしたが、住むには良いところ、しあわせを求める場所としては悪い場所ではない、と感じました。今日歩いてみても、その辺は少しも変わっていないですね。私は、津山で生まれ育った人がこだけで生涯を送るといのは今の時代難しいのでは、と思います。若いときは自分が一番活躍できる場所で生活し、最終的に故郷に帰ってくる。津山とは、高齢者になったときに、穏やかな生活を求めるのに合っているのでは、と思います。

市長 津山の印象や思い出を話していただきましたが、先生方はそれぞれ専門の分野で活躍されています。今後の津山を考えるうえで、専門分野から見たまちづくり・人づくりについて、考えをお聞かせください。子どもを中心と考えてみては

ています。この2つは所轄官庁も分かれています。でも保育所になるか幼稚園になるかは、親の都合。私は、この国に生まれた子どもはみな同じ教育・保育を受けたいと思っています。小学校では親が働いているかいないかでクラスが違ったり、受ける教育が違ったり、なんでもやっていますよ。中央に「子ども庁」でも作って全部いっしょにすれば、一番簡単な一元化ですが、そこまでしなくても「認定子ども園」などで、教育と保育を一体的にできるのではと思います。公立保育所の民営化については、少子化の現状を考えると行政としては魅力的でしょう。民営化のやり方です。あれは説明不足も原因です。今利用している人や働いている人たちにいい説明して同意を得ているところはどこも成功しています。なぜ保育所を民営化した方がいいのか、質を落とすわけではない、このように良くなるんだと、ていねいに説明して納得してもらおうことですね。市長 私も本質論から言えば、幼稚園と保育所は分ける理由がないと思っています。また公だけでやる必要もない。民営化という、行政が楽をしようとするイメージがあるから反対される。経費削減もあるが、意義の方が論ぜられない